

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成25年2月1日(金)~14日(木)

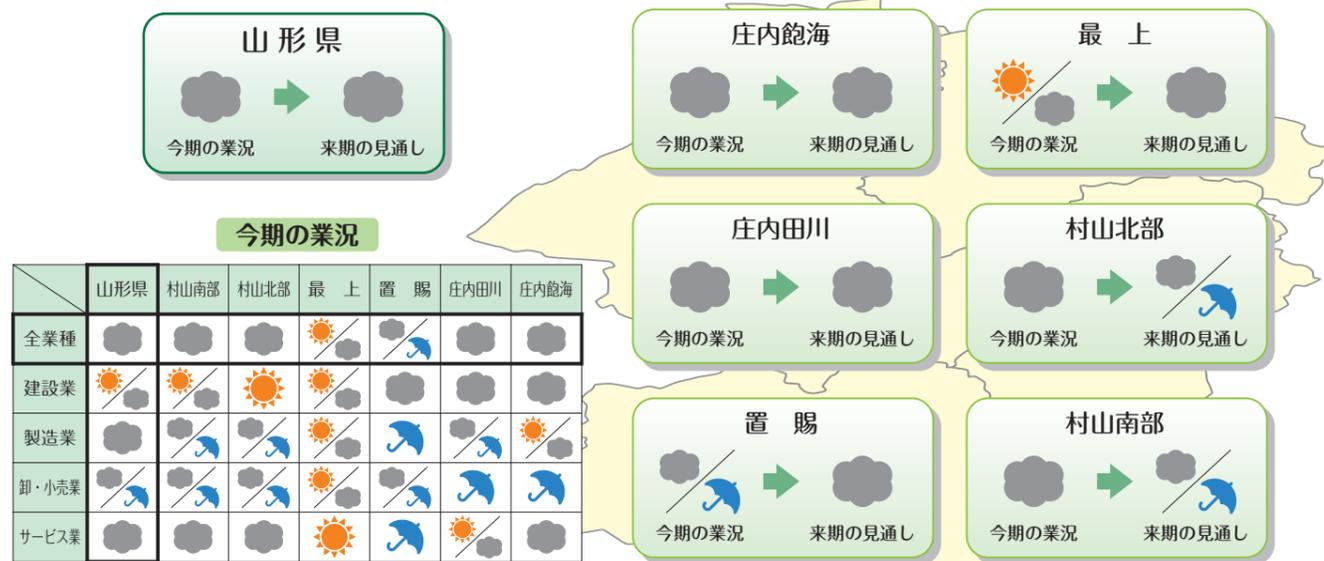
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形753社、秋田583社
有効回答数 山形502社、秋田399社
回答率 山形66.7%、秋田68.4%

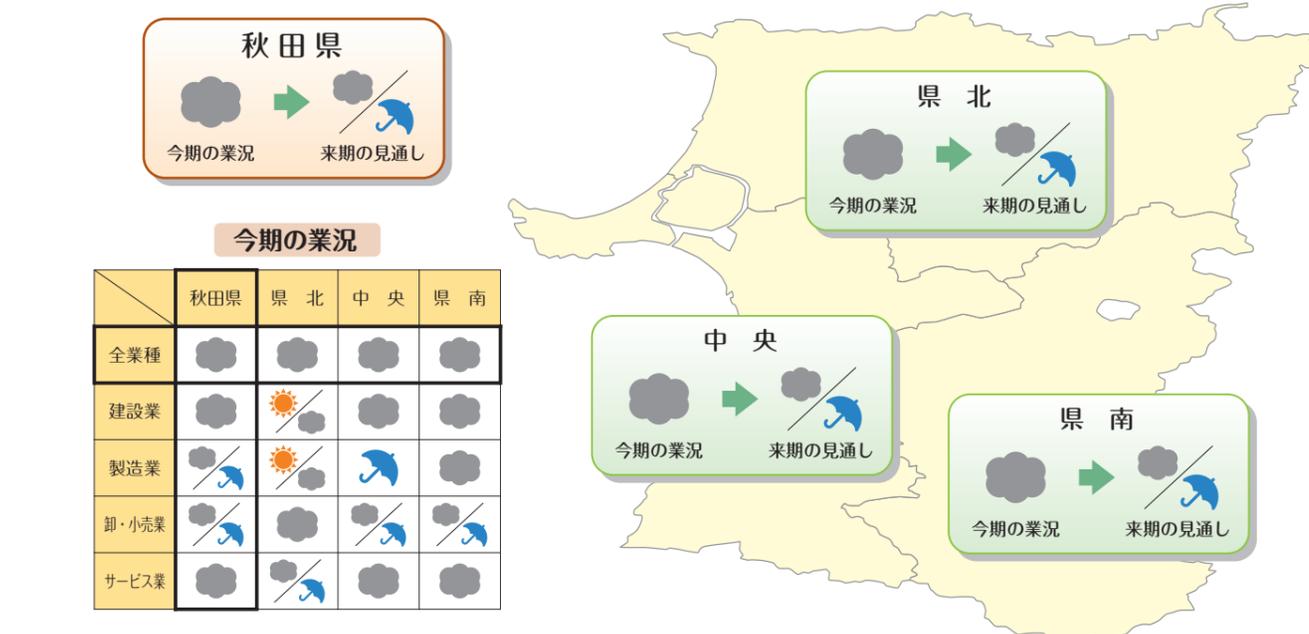
特に好調 DI≥30	好調 30>DI≥10	まあまあ 10>DI≥▲10	不振 ▲10>DI≥▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気天気図

第34回「山形県内企業の景気動向調査」



第7回「秋田県内企業の景気動向調査」



▶ 自社業況の動向

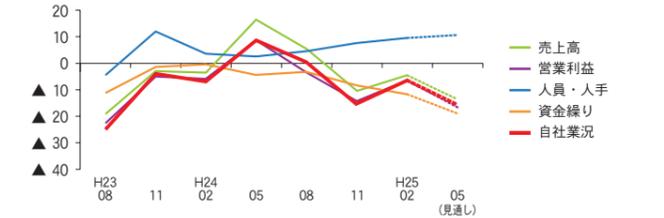
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲5.6(前回調査比4.4ポイント下落)と悪化幅は若干和らいでいるものの、3期連続の悪化となった。これは、円安などが現時点ではプラスに働かず、燃料費の高騰などのマイナス面が先行して出ているためと考えられる。先行き見通しは▲9.6(今回調査比4.0ポイント下落)と、さらに悪化の見通し。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲6.5(前回調査比9.3ポイント上昇)と依然としてDI値はマイナスであるが、3期ぶりに改善となった。先行き見通しは▲15.8(今回調査比9.3ポイント下落)と悪化が見込まれており、県内景気は当面一進一退の状況と考えられる。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

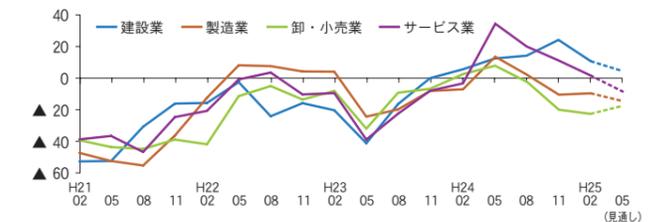


▶ 業種別の動向

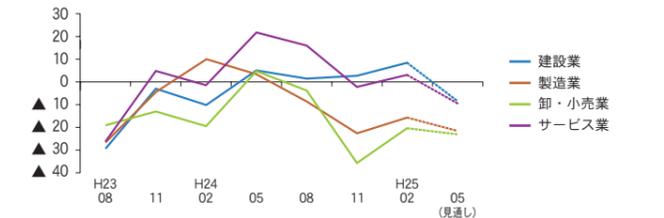
山形県の業況を業種別にみると、**製造業以外の業種がすべて悪化**となった。建設業は引き続きDI値のプラスを維持しているものの、下落幅が大きい要因としては、復興関連需要の一服感や材料費の高騰等が考えられる。先行き見通しは卸・小売業で回復の見通しとなっているが、その他の業種は悪化の見通しとなっている。

秋田県の業況を業種別にみると、**すべての業種で改善**となった。建設業では公共工事の緩やかな持ち直し基調に加え、豪雪に伴う受注の増加が見られたほか、その他の業種でも総じて底堅い動きとなっている。先行き見通しは全業種で悪化の見通しとなっている。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

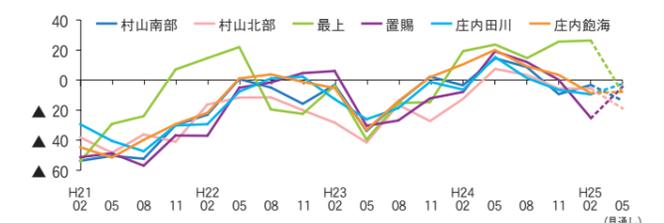


▶ 地域別の動向

山形県の業況を地域別にみると、村山南部で▲3.1(前回調査比6.1ポイント上昇)、村山北部で▲5.4(前回調査比0.4ポイント上昇)、最上で26.5(前回調査比1.0ポイント上昇)、置賜で▲25.0(前回調査比25.0ポイント下落)、庄内田川で▲9.3(前回調査比2.7ポイント上昇)、庄内飽海で▲8.9(前回調査比12.0ポイント下落)となり、**置賜地区の悪化幅が大きいのは、建設業とサービス業の季節的要因**と考えられる。先行き見通しは置賜で大幅に回復見通しである一方で、最上で大幅に悪化の見通し。

秋田県の業況を地域別にみると、県北で1.5(前回調査比22.0ポイント上昇)、中央で▲8.1(前回調査比5.7ポイント上昇)、県南で▲8.2(前回調査比8.9ポイント上昇)となり、**すべての地域で改善**がみられている。先行き見通しは全地域で悪化の見通しとなっており、県北の悪化幅が大きい見通しとなっている。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

